

水産試験場研究評価委員会 評価のとりまとめと機関の対応方針

(最終評価)

事業名 (課題名)	有用貝類資源形成機構調査 (ハマグリ稚貝生態解明試験)			研究 期間	令和元～5年度 (5カ年)	予算 区分	委託
研究の成果	A. 目標を超えて達成 B. ほぼ目標を達成 C. 目標をやや下回った D. 目標を大きく下回った						
委員名	1	2	3	4	5	6	まとめ
評価結果	B	A	B	A	A	A	A
主な意見	<p>①研究目標の達成について</p> <ul style="list-style-type: none"> 二枚貝資源が衰退している中で、ハマグリ種苗生産技術の開発は、時宜を得た重要な目標であると認められる。 当初計画どおり、ハマグリ種苗生産技術が開発できた。 ハマグリ生態を把握して種苗生産技術を開発し、放流適地の検討も行っている。 種苗生産技術を確立するとともに資源生態を把握することができた。 ハマグリ栽培漁業に大きく貢献する。 <p>②成果の水準について</p> <ul style="list-style-type: none"> 県栽培漁業センターでの事業化が可能なレベルにまで、技術開発が進められたことは高く評価できる。 ハマグリ種苗生産は県栽培漁業基本計画に位置付けられており、開発された技術は有益。 資源増大に効果的な技術が得られている。 本研究で得られた成果は事業化可能な水準に達している。 <p>③貢献度について</p> <ul style="list-style-type: none"> 種苗放流海域の環境改善、環境管理技術の開発と合わせて、水産振興への貢献が期待できる。 貝類資源が低迷する中、ハマグリ資源の安定化につながれば、貢献度は高い。 栽培漁業に十分に貢献できる研究結果である。 当成果がハマグリ資源増大に寄与する可能性は大きい。 栽培漁業への利用が予定されている。 <p>④普及性について</p> <ul style="list-style-type: none"> 普及性の向上には、現場でハマグリ生産実績を上げることが、極めて重要である。 栽培漁業センターでの生産が計画されており、技術継承される予定である。 事業として実施でき、普及できると思われる。 栽培センターにおいても十分活用できる技術である。 <p>⑤総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> アサリをはじめとする多くの二枚貝資源が衰退する中で、ハマグリ種苗放流技術の開発には、大きな意義がある。今後、ハマグリ種苗放流が成功するための要因についても、さらに解析が進むことを期待したい。種苗放流技術の開発とともに、放流後の管理や漁場の改善についても十分な情報発信を期待したい。アサリが不調な中で、ハマグリが成功する要因を解析して分かりやすく説明することは、今後の二枚貝類の種苗放流や増殖技術開発に様々なヒントを与える可能性がある。 伊勢・三河湾の貧栄養化により、アサリ資源が不安定となっている状況において、ハマグリ種苗の生産技術が確立され事業化の見通しが立ったことは本県漁業にとって明るい材料である。今後は、県内地先漁場での放流適地の検討をしていただき、漁業者の要望に応じて事業化の態勢を整えていただけるよう期待する。 アサリ資源の回復が待たれる中、同じ漁場に生息するハマグリにも漁業者は期待している。今後、ハマグリ種苗放流を行い、アサリ資源の回復と並行して、ハマグリ資源の増大や安定化が図られることを期待する。 						

- ・ 種苗生産効率を高めるようハマグリ生態に基づいた試験を重ねて、技術が確立されている。また、種苗放流に適した場所の条件を明らかにした。これらによって、効果的に資源を増大させられ、栽培漁業に大きく貢献すると考えられる。
- ・ アサリ資源が低迷し新たな漁業対象種としてハマグリが注目されている中、種苗生産技術から放流技術まで確立できた意義は大きい。
- ・ ハマグリ栽培漁業について、短期間で技術開発できており高く評価できる。得られたハマグリ分布の知見に基づき、親貝資源保護区設定など具体的な資源管理方策を提言してほしい。

機関としての対応方針

総合評価は「A」評価であり、目標を超えて達成したと判断する。

本事業のうち種苗生産技術開発では、好適な飼育条件を明らかにでき、放流適地の検討ではハマグリの分布生態を明らかにできた。

今後は委員会の意見を受け、ハマグリ種苗放流後の管理や漁場改善の情報発信等に取り組み、ハマグリの栽培漁業の推進に努める。